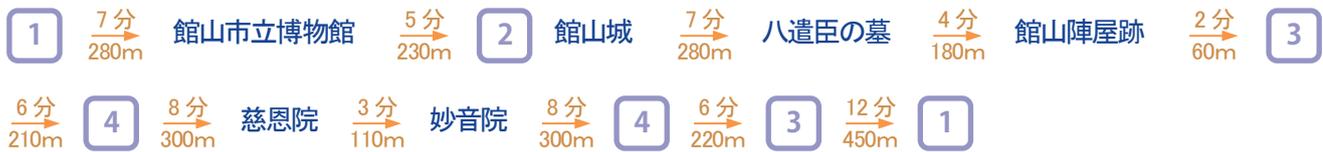


<推奨コース> [距離] 約2.6km [所要時間] 約60分



<おすすめスポット>



城山公園

山頂には天守からの鏡ヶ浦を中心とした市街地が一望できる三層四階天守閣様式の博物館分館、中腹の館山市立博物館と併せて歴史の散策が楽しめます。季節に合わせて花木が咲き揃います。頂上付近には万葉集に詠まれた植物を小径に集めた「万葉の径」や「つばきの径」がつけられています。白砂利の枯山水や小流れをしつらえた日本庭園と茶室は茶会等に利用でき、公園全体が市民の憩いの場となっています。



館山市立博物館

江戸時代初めまで安房を支配した戦国武将里見氏についての展示や昔の人々の暮らしの展示、土器復元パズルなど歴史文化を身近に楽しく感じられるような工夫があります。季節や曜日によって、甲冑の着用体験や多彩な展示会も開催されています。



館山市立八犬伝博物館(館山城)

天正16年(1588)安房の名門、12万石を有した里見氏9代目義康が築き本拠とした館山城(別名里見城)の城跡に建てられました。館山城は南総里見八犬伝の舞台としても知られています。天守からは市街地を一望できるだけでなく、天気の良い日には光きらめく館山湾全体を見渡せ、遠くは富士山や三浦半島も望むことができます。



八遣臣の墓

丘陵斜面の横穴が埋没して奇妙な形をしていたため、「姥神様(うばがみさま)」とよばれて祀られていたそうです。伯耆国倉吉において、里見氏十代目にして最後の当主となった忠義の死に際して倉吉随従の家臣たち数名が殉死し、安房の里見の旧臣が伯耆に出向き、蛸壺に分骨して持ち帰り、ここに埋めたといわれています。また、江戸時代の文豪、曲亭馬琴が書いた「南総里見八犬伝」の「八犬士」のモデルにされたともいわれています。



館山陣屋跡

慶長19年に里見氏の館山藩が廃藩となり、館山城も破却された後、しばらく藩はおかれませんでした。天明元年(1781)に旗本稲葉正明が安房国で加増をうけ1万石の大名になると館山藩を立て寛政3年(1791)に館山城南麓に陣屋を構えました。現在御屋敷と呼ばれているところで、当時の区画が残され、稲葉氏の霊を祀った貴美稻荷があります。



慈恩院

曹洞宗の寺院で里見氏の菩提寺のひとつとして知られ、里見義康の墓があります。境内には中世の石像や陽刻五輪塔もみられます。館山藩の儒学者乙幡雲廊や、沼出身の藩絵師川名楽山、函館五稜郭の戦いで戦死した木下晦蔵、東京高等商業学校校長坪野南陽などの墓も知られています。



妙音院

明治二十八年に、上総国の前田覺忍師が発願し、一山全体に四国霊場を遷した「安房高野山八十八ヶ所霊場」が開基されました。石工作りの大師尊象が、約二年の歳月をかけてご奉納されました。大正時代には、関東大震災にて本堂、薬師堂が倒壊。すぐに復興されましたが昭和初期、太平洋戦争東京大空襲の後、本堂、庫裡、諸堂が焼失し、唯一焼け残ったのが鐘楼堂、山門でした。現在もなお鐘楼堂が、その当時の様子を物語っています。

<お問合せ>

館山市観光協会

館山市北条 1879-2 (JR 館山駅東口) TEL 0470-22-2000